

平成30年度 三朝町立東小・三朝町立南小・上小鴨小国語研究部会  
アドバイザー派遣事業レポート②

三朝東・三朝南・上小鴨小国語研究部会

- 1 研究テーマ 思いを豊かに伝え、主体的に学び合う子どもの育成  
～身に付けたい力を明確にした国語科の授業づくり～
- 2 アドバイザー 玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授 輿水かおり 先生
- 3 実施期日 平成30年11月7日(水) 午後1時30分～午後4時30分
- 4 研究会場所 倉吉市立上小鴨小学校
- 5 当日の日程 公開学習 午後1時30分～午後2時15分  
5年国語科 単元名 輝く言葉を使って、人生ヒントポップを作ろう  
～様々な人物の伝記を読んで、自分の生き方を考えよう～  
教材文「手塚治虫」  
(学習指導案は別紙)

みとりの視点

【言葉を手がかりにしながら、自分の考えをもつ子ども】

本や文章を読んだことをもとに、自分の考えをもち表現することができたか。

研究協議 午後2時30分～午後3時20分

協議の視点

- ・つけたい力を明確にした単元構成・授業構成となっているか。
- ・本時の目標を達成するために、適切な支援がなされていたか。

指導助言 午後3時20分～午後4時30分

6 研究協議や指導助言で明らかになったこと

5年国語「手塚治虫」の伝記を教材として使い、伝記を読んで自分の生き方を考え、それをポップにまとめ、お互いの考えを話し合う授業を公開し研究協議を行った。主体的・対話的で深い学びにするために、教師が本単元のねらいを明確にもち、そのための活動や発問をしっかり練った授業であり、学ぶことが多い授業だった。しかし、伝記を読む学習として、単元の構成については課題があった。指導助言から、伝記は書かれている人物の業績をどう読むのか、伝記に書かれている人物を筆者がどうとらえ、どう書いているのかトータルに考えて単元を構成する必要があることを学んだ。今回も、三朝町立東小・南小、上小鴨小の3校の先生方が、各校での取り組みを活かした視点で授業を見取り、子どもたちに力をつけるための支援の在り方、授業の流し、発問などを協議し、国語科の授業のあり方について研究を深めることができた。

輿水先生には、伝記の読み方・指導の在り方や、「主体的・対話的で深い学び」にするために、教師の役割や対話的学びのための話形、深い学びの教師の価値付け(評価)などについて具体的にご指導していただき、学ぶことが多い大変有意義な研究会となった。

